

科目名	論理学						
科目名(英)	logic						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	野見山 待子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	物事を論理的に思考し、客観的に評価できるような物の見方・考え方を学び、根拠に基づいた思考力と分析力、また論理的に表現し伝える力を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 思考の形式および法則を理解した上で論理的思考について説明できる。	
	○	○				2. 他者の意見を客観的に評価し、批判的思考について説明できる。	
	○	○				3. 自己の考えや思考を他者に伝える為の文章表現について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	論理的であるとは			配布資料の事前通読		
	2	論理的推論(演繹)と推測の違い			配布資料の事前通読		
	3	論証評価			配布資料の事前通読		
	4	論証評価その2			配布資料の事前通読		
	5	立論・異論・反論			配布資料の事前通読		
	6	反論・批判			配布資料の事前通読		
	7	否定について			配布資料の事前通読		
	8	両立可能なもの・不可能なもの			配布資料の事前通読		
	9	論証図			配布資料の事前通読		
	10	論証図その2			配布資料の事前通読		
	11	正しい演繹			配布資料の事前通読		
	12	正しい演繹その2			配布資料の事前通読		
	13	間違った演繹と隠れた前提			配布資料の事前通読		
	14	論証を批判的に捉える			配布資料の事前通読		
15	論証を批判的に捉えるその2			配布資料の事前通読			
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	心理学						
科目名(英)	Psychology						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	大黒 剛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	看護をする上で自己理解および他者理解について学ぶと共に、それらに関連する理論についても学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 心理学の種類について述べるができる。	
	○	○				2. 知覚・盲点について述べるができる。	
	○	○				3. 記憶の過程(短気・長期記憶)について述べるができる。	
	○	○				4. 精神機能について述べるができる。	
	○	○				5. 学習について述べるができる。	
	○	○				6. 表情と情動について述べるができる。	
	○	○				7. 性格の心理について述べるができる。	
	○	○				8. 集団の心理について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 心理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理学の種類について			配布資料の事前通読		
	2	知覚・盲点、系列位置効果実験			配布資料の事前通読		
	3	記憶の過程(短気・長期記憶)			配布資料の事前通読		
	4	プライミング、サブリミカル効果(閾下刺激)、単純接触効果			配布資料の事前通読		
	5	技能学習、学習曲線(S字曲線と高原現象)			配布資料の事前通読		
	6	精神機能について(思考、思考過程、知識、概念、素朴概念、			配布資料の事前通読		
	7	表情と情動(ホットシステム、クールシステム、レジリエンス)			配布資料の事前通読		
	8	性格の心理(乳幼児の性格の発達、フロイトの心理、エリクソンの心理)			配布資料の事前通読		
	9	集団の心理(地位と役割、指導者、PM理論)			配布資料の事前通読		
	10	集団の心理(コミュニケーション、世論、流行、宣伝)			配布資料の事前通読		
	11	学習について(問題解決法の方略)			配布資料の事前通読		
	12	学習について(メタ認知、推論とは、)			配布資料の事前通読		
	13	学習について(IQとEI、知能の発達要因)			配布資料の事前通読		
	14	学習について(条件刺激、無条件刺激、)			配布資料の事前通読		
	15	学習について(モデリング、刷り込み、学習の転移)			配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	病態生理学 I 消化器						
科目名(英)	Pathophysiology I Digestive system						
単位数	1単位	時間数	20/30	担当者	井村洋 矢田雅佳 実践家教員		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	消化器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。消化器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 消化器の構造と機能を想起することができる。	
	○	○				2. 消化器系の症状とメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 消化器系の診察方法について述べるができる。	
	○	○				4. 消化器系の疾患(原因、症状、治療)について述べるができる。	
	○	○				5. 消化器系の検査とその留意点について述べるができる。	
	○	○				6. 肝機能障害について述べるができる。	
	○	○				7. 肝疾患の検査、治療について述べるができる。	
	○	○				8. 肝細胞がん、肝硬変、肝炎の種類や症状、原因、治療について述べるができる。	
	○	○				9. 上部消化管の外科的治療、合併症について説明できる。	
○	○				10. 下部消化管の外科的治療、合併症について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 消化器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	食道の構造と機能 小腸・大腸の構造と機能について(井村)				配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読	
	2	消化器系の症状(吐血・下血・下痢・便秘・腹部膨満・食欲不振・体重減少)について(井村)					
	3	消化器系の視診、聴診、打診、触診、直腸指診について(井村)					
	4	消化器系の検査について(井村)					
	5	食道・胃・十二指腸疾患について(井村)					
	6	大腸癌、ヘルニア、虫垂炎について(井村)					
	7	肝臓・胆道・胆嚢・膵臓の構造について(矢田)					
	8	肝臓・胆道・胆嚢・膵臓の疾患について(矢田)					
	9	上部消化管の外科的治療について(実践家教員)					
10	下部消化管の外科的治療について(実践家教員)						
評価方法	・3名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(井村)	◎	◎				60%
	筆記試験(矢田)	◎	◎				20%
	筆記試験(実践家教員)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学 I 1単位取得には、(病態生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学 I 内分泌器						
科目名(英)	Pathophysiology I Endocrine system						
単位数	1単位	時間数	10/30	担当者	坂井二郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	内分泌器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。内分泌器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 内分泌疾患の種類とメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				2. 甲状腺疾患の症状と治療について述べるができる。	
	○	○				3. 副腎疾患の症状と治療について述べるができる。	
	○	○				4. 糖尿病の原因と種類、症状と治療について述べるができる。	
	○	○				5. 高脂血症について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 内分泌器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	バセドウ病、橋本病について				配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	2	尿崩症、SDADHIについて					
	3	亜急性甲状腺炎について					
	4	原発性アルドステロン症、アジソン病について					
	5	糖尿病、高脂血症について					
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学 I 1単位取得には、(病態生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅱ 呼吸器						
科目名(英)	Pathophysiology II. Blood and hematopoietic organs						
単位数	2単位	時間数	15/45	担当者	坂井 二郎 大崎 敏弘		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	呼吸器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。呼吸器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 慢性閉塞性肺疾患の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				2. 気管支喘息の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				3. インフルエンザの病態と治療について述べるができる。	
	○	○				4. 肺結核の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				5. 間質性肺炎の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				6. 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				7. 過換気症候群の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				8. 肺がんと肺がんの治療について述べるができる。	
	○	○				9. 呼吸器系の手術療法について述べるができる。	
○	○				10. 呼吸器系の術後の合併症について述べるができる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	慢性閉塞性肺疾患について(坂井)			配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読		
	2	気管支喘息について(坂井)					
	3	気管支喘息(坂井)					
	4	インフルエンザ 肺結核 間質性肺炎(坂井)					
	5	睡眠時無呼吸症候群 過換気症候群(坂井)					
	6	肺がんについて(大崎)					
	7	呼吸器系の手術療法 肺ドレナージについて(大崎)					
8							
評価方法	・2名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(坂井)	◎	◎				80%
	筆記試験(大崎)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						
	*病態生理学Ⅱ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅱ 血液・造血器						
科目名(英)	Pathophysiology II. Blood and hematopoietic organs						
単位数	2単位	時間数	10/45	担当者	喜安 純一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	血液・造血器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。血液・造血器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 血液の生理と造血のしくみについて述べるができる。	
	○	○				2. 造血器系の症状(貧血、白血球増加症・減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因)について述べるができる。	
	○	○				3. 検査、輸血について述べるができる。	
	○	○				4. 造血器腫瘍治療の基本理念について述べるができる。	
	○	○				5. 造血器系の疾患(貧血;鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血、白血病;慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、骨髄増殖性疾患、白血病の異常、伝染性単核球症、悪性リンパ腫、HIV感染とエイズ、異常タンパク血症、出血性疾患)の特徴と症状、治療について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 血液・造血器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	血液の生理と造血のしくみ 検査、輸血について				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読	
	2	造血器系の症状(貧血、白血球増加症・減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因) 造血器腫瘍治療の基本理念					
	3	貧血;鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血、					
	4	白血病;慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、骨髄増殖性疾患、白血病の異常					
	5	伝染性単核球症、悪性リンパ腫、HIV感染とエイズ、異常タンパク血症、出血性疾患					
評価方法	・1名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅱ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅱ 循環器						
科目名(英)	PathophysiologyⅡ Cardiovascular						
単位数	2単位	時間数	20/45	担当者	井上 修二 今村 義浩 内田 孝之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	循環器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。循環器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 動悸・チアノーゼについて説明することができる。	
	○	○				2. 循環器系の検査について(心電図、エコー、X線、心筋シンチグラフィ、磁器共鳴画像法、PCI、ペースメーカー)述べることができる。	
	○	○				3. 循環器系の疾患(メタボリックシンドローム、血圧異常、弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患、リンパ性疾患、動脈系疾患、先天性疾患)について述べるができる。	
	○	○				4. 狭心症(労作性狭心症・安静狭心症)の種類・原因・治療について述べるができる。	
	○	○				5. 急性冠症候群と心筋梗塞;分類・症状・検査について述べるができる。	
	○	○				6. 心不全の種類とメカニズム、治療について述べるができる。	
	○	○				7. 不整脈と心電図(心房性・心室性期外収縮)の特徴について述べるができる。	
	○	○				8. 冠動脈バイパス手術の方法と術後の合併症について述べるができる。	
	○	○				9. 大動脈瘤の外科治療の特徴について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	動悸・チアノーゼについて				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読	
	2	循環器系の検査について(心電図、エコー、X線、心筋シンチグラフィ、磁器共鳴画像法、PCI、ペースメーカー)					
	3	循環器系の疾患:メタボリックシンドローム、狭心症;労作性狭心症・安静狭心症、					
	4	急性冠症候群、					
	5	心筋梗塞;分類・症状・検査、					
	6	心不全、血圧異常、弁膜症、先天性心疾患					
	7	心筋疾患、リンパ性疾患、動脈系疾患、先天性疾患					
	8	不整脈と心電図(心房性・心室性期外収縮)					
	9	冠動脈バイパス手術の方法と術後の合併症について(内田)					配布資料の事前通読 解剖生理学循環器通読
10	大動脈瘤の外科治療の特徴について(内田)						
評価方法	・3名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(井上 今村)	◎	◎				80%
	筆記試験(内田)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅱ 2単位取得には、(病態生理学Ⅱ 循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅳ 感染症						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Infection						
単位数	1単位	時間数	6/(30)	担当者	橋本 法修		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	感染性疾病、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。感染性疾病に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 細菌とウイルスの違い・パンデミックについて述べるができる。	
	○	○				2. 各細菌性疾患について説明できる。	
	○	○				3. 各ウイルス性疾患について説明できる。	
	○	○				4. 結核、薬剤耐性菌について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 感染症 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細菌とウイルスの違い・パンデミック				配布資料の事前通読 通読	
	2	細菌性疾患、ウイルス性疾患および治療、検査					
	3	結核、薬剤耐性菌					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅳ 女性生殖器						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Female genital organ						
単位数	1単位	時間数	12/(30)	担当者	辻岡 寛		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	女性生殖器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。女性生殖器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				1. 女性生殖器の構造と機能について想起することができる。	
	○	○				2. 妊娠の成立と診断について述べるができる。	
	○	○				3. 女性生殖器の症状(ショック、出血)述べるができる。	
	○	○				4. 女性生殖器系の診察と検査について述べるができる。	
	○	○				5. 女性生殖器系の疾患について述べるができる。	
	○	○				6. 不妊の治療、人工授精、性感染症と治療について述べるができる。	
	○	○				7. 女性生殖器系の疾患の手術療法(子宮癌)について述べるができる。	
	○	○				8. 乳癌の手術療法について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 女性生殖器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	女性生殖器の構造と機能、妊娠の成立と診断について				配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読	
	2	女性生殖器系の症状(ショック、出血)、診察と検査					
	3	膣の疾患、子宮の疾患、卵管の疾患、卵巣の疾患、					
	4	骨盤内炎症性疾患、乳腺の疾患、乳がん、					
	5	不妊の治療、人工授精、性感染症と治療					
	6	女性生殖器系の疾患の手術療法(子宮癌)、乳癌の手術療法					
7							
8							
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅳ 腎・泌尿器						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Renal and urinary organs						
単位数	1単位	時間数	10/(45)	担当者	中島雄一 藤崎 毅一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	腎・泌尿器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。腎・泌尿器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			目標		
	○	○			1. 腎不全の症状・治療について述べるができる。		
	○	○			2. 腎移植・末梢腎不全治療について述べるができる。		
	○	○			3. 泌尿器系の構造と機能(腎臓・尿管・膀胱・尿道・男性生殖器)について想起することができる。		
	○	○			4. 尿の異常と排尿に関連した症状(疼痛・腫脹・腫瘤)について述べるができる。		
○	○			5. 泌尿器系の検査と治療、手術療法について述べるができる。			
○	○			6. 尿路・性器の感染症(腎盂腎炎・膀胱炎・尿失禁・腎結石症)について述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 腎・泌尿器 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	腎不全の症状・治療、腎移植・末梢腎不全治療について			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
	2	泌尿器系の構造と機能(腎臓・尿管・膀胱・尿道・男性生殖器)					
	3	尿の異常と排尿に関連した症状(疼痛・腫脹・腫瘤)					
	4	泌尿器系の検査と治療、手術療法について					
	5	尿路・性器の感染症(腎盂腎炎・膀胱炎・尿失禁・腎結石症)					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 ・藤崎先生は、試験無し 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(中島)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	公衆衛生学 I						
科目名(英)	Public health I						
単位数	2単位	時間数	30	担当者	小出昭太郎 竹原直道		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
象学科・学	看護科 1年生						
授業概要	疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために公衆衛生の動向を理解し、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場、地域での総合的な健康支援について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 公衆衛生の意義を説明できる。	
	○	○				2. 公衆衛生の各分野における現状と取り組みを説明できる。(母子保健、学校保健、成人・老人保健、精神保健福祉、難病対策、地域保健)	
	○	○				3. 公衆衛生の理念を説明できる。	
	○	○				4. 疫学の基礎を説明できる。	
	○	○				5. 健康の指標の現状を説明できる。	
テキスト・教材参考図	系統看護学講座 公衆衛生 国民衛生の動向(厚生統計協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	公衆衛生の意義				配布資料の事前通読	
	2	母子保健					
	3						
	4	学校保健					
	5						
	6	成人・老人保健					
	7						
	8	精神保健福祉					
	9						
	10	難病対策					
	11	地域保健					
	12	公衆衛生の理念					
	13	疫学の基礎					
	14	健康の指標					
15	まとめ 振り返り						
評価方法	2名の講師にて筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小出)	◎	◎				50%
	筆記試験(竹原)	◎	◎				50%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術 I 活動・休息 清潔						
科目名(英)	Basic nursing technology I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	中垣 沙弥香		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	基礎看護学実習 I では、対象とのコミュニケーションを通して、対象の療養生活に対する思いを知るとともに、看護の基盤となる対人関係のプロセスを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1.健康生活と清潔との関連が説明できる。	
	○	○				2.人の清潔な状態について説明できる。	
			○			3.清潔を整えるための援助技術が実施できる。	
	○	○				4.健康生活と活動・休息との関連が説明できる。	
	○	○				5..人の活動・休息状態のに説明ができる。	
		○				6.効率的で安全安楽なポジショニング技術の実施ができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護術 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生理的、心理的、社会的な側面からの清潔・衣生活の意義				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	生理的、心理的、社会的な側面からの清潔・衣生活の目的					
	3	清潔、衣生活に対するニーズの把握					
	4	清潔、衣生活に対するニーズのアセスメント					
	5	学内演習(清拭、病衣交換、洗髪)					
	6	体位変換援助					
	7	床上移動援助					
	8	車椅子・ストレッチャーでの移動					
	9	休息と睡眠の意義					
	10	休息と睡眠のメカニズム					
	11	休息と睡眠のニーズに関するアセスメント					
	12	休息睡眠を促す援助方法					
	13	安楽な体位(演習)					
	14	ボディメカニクス(演習)					
15	まとめ・振り返り						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験(清潔:60%)+(活動40%) 合計100% 筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 実技は、評価点数には含めないが、実技中に技術の上達を確認する。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術 V 与薬・検査						
科目名(英)	Basic nursing technology V						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	田中 美香		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	検査の目的とそれを受ける対象への援助について学ぶ。 薬物療法の目的とそれを受ける対象への援助について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1.検査の目的とそれを受ける対象への援助の方法について説明できる。	
	○	○				2.与薬における法的根拠、知識・技術・態度、薬剤の種類などについて説明できる。	
	○	○				3.さまざまな与薬方法について説明できる。	
	○	○	○	○		4.さまざまな与薬方法(注射法)の基礎的技術が習得できる。	
	○	○				5.輸血法、針刺し事故防止策について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II ・看護技術プラクティス 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	検査における看護師の役割			テキスト事前通読、適時課題実施		
	2	症状・生体機能管理技術					
	3	診察・検査・処置の介助技術					
	4	与薬とは、与薬における法的根拠、与薬のための基礎知識					
	5	薬剤の種類、与薬のための知識・技術・態度、経口与薬(内服)					
	6	与薬方法(吸入、点眼、点鼻、経皮、直腸内、作用機序)					
	7	与薬方法(注射)					
	8						
	9	与薬方法(筋肉注射)					
	10	与薬方法(筋肉注射):学内演習					
	11	与薬方法(静脈内注射)					
	12	与薬方法(静脈内注射):学内演習					
	13	与薬方法(点滴静脈内注射)					
	14	与薬方法(点滴静脈内注射):学内演習					
15	輸血法、針刺し事故防止策、まとめ						
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 100点 ・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は再試験対象となる。 ・点数には含めないが、技術については演習で評価する。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技Ⅵ 看護過程						
科目名(英)	Basic Nursing Technology VII Nursing process						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	柁澤芳江		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	看護を展開するプロセスに必要な知識を習得し、問題の明確化、優先度の判断、計画、対象の反応の確認や評価、方法などについて理解できるようにする。さらに対象を多面的に捉え、フィジカルアセスメントや安全・安楽な看護を身につける機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護過程の5つの構成要素の概要について説明することができる。	
	○	○				問題解決過程について事例をもとに説明することができる。	
	○	○				アセスメントについて以下の内容を説明することができる。	
	○	○				看護問題の見極め(看護診断の進め方)について以下の視点で説明することができる。	
	○	○				期待される成果の明確化について以下の視点で説明することができる。	
	○	○				実施について以下の視点で説明することができる。	
	○	○				ヘンダーソンが考える看護について以下の視点で説明することができる。	
	○	○				看護記録について以下の視点で説明することができる。 ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程について紙上事例を基に以下の視点で記述することができる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎看護技術Ⅰ(医学書院) ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 看護診断ハンドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	看護過程の5つの構成要素			配布資料の事前通読		
	2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方			配布資料の事前通読		
	3	アセスメント(情報収集と分析)			配布資料の事前通読		
	4	看護問題の明確化(看護診断)			配布資料の事前通読		
	5	看護計画			配布資料の事前通読		
	6	実施、評価			配布資料の事前通読		
	7	看護記録とは、看護記録の構成			配布資料の事前通読		
	8	ヘンダーソンが考える看護			配布資料の事前通読		
	9	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際			配布資料の事前通読		
	10				配布資料の事前通読		
	11				配布資料の事前通読		
	12				配布資料の事前通読		
	13				配布資料の事前通読		
	14				配布資料の事前通読		
15	配布資料の事前通読						
評価方法	評価:提出レポート内容(80%)・態度面(20%) 計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート評価	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	臨床看護技術						
科目名(英)	Clinical nursing technology						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	山本 勇也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	健康障害をもつ対象の理解とその状態に応じた看護について演習を通して教授する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康障害をもつ対象の理解について述べるができる。	
	○	○				2. 主要症状のある患者の看護について述べるができる。	
	○	○				3. 主要症状、治療処置別の看護について述べるができる。	
			○	○		4. 患者の状態に応じた基礎看護技術を実施することができる。	
○	○				5. 基礎看護技術と臨床看護技術の違いについて述べるができる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 臨床看護総論[4]						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床看護技術				配布資料の事前通読	
	2	健康障害、主要症状がある患者の理解				配布資料の事前通読	
	3	基礎看護技術の核				配布資料の事前通読	
	4	健康障害、主要症状がある患者に向けての基礎看護技術の実践				配布資料の事前通読	
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15	基礎看護技術と臨床看護技術の違い				配布資料の事前通読		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験20%と技術試験80%の合計100%にて評価を行う。 ・技術試験に関しては形成評価とする。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				20%
	技術試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護学実習 I						
科目名(英)	Basic Nursing Practice I						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	臨地指導者・野中 紀子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	看護の対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1.患者の療養環境について説明できる。	
	○	○				2.患者とのコミュニケーションを通し、患者のニーズについて説明できる。	
	○	○				3.人間関係が成立するまでのコミュニケーションの重要性について説明できる。	
	○	○	○			4.対象の全体像を知るためにヘンダーソン理論に基づき、系統的に情報収集ができる。	
	○	○	○	○		5.原理原則に基づいて、日常生活活動の援助技術を実施できる。	
				○		6.看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎看護学の講義資料 その他、基礎看護に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	授業項目・内容				授業外学修指示		
	基礎 看護 学 実 習 I ①	入院による生活の変化(患者の状況)				基礎看護学実習に必要な資料の振り返り	
		入院による生活の変化(病室環境)					
		患者の生理的ニーズを把握					
		対象とのコミュニケーション(言語的)					
		対象とのコミュニケーション(非言語的)					
	① コミュニケーションの構成要素						
	基礎 看護 学 実 習 I ②	基本的看護の構成要素に基づいた情報収集の実施					
		基本的欲求に影響を及ぼす常在条件に基づいた情報収集の実施					
		基本的欲求を変容させる病理的状态に基づいた情報収集の実施					
情報源の活用(患者・家族・カルテ・患者の同室者・医療スタッフ)							
原理原則に則った上での看護技術(環境調整)							
原理原則に則った上での看護技術(症状・生体機能管理)							
原理原則に則った上での看護技術(食事・排泄援助)							
原理原則に則った上での看護技術(活動・休息援助)							
原理原則に則った上での看護技術(清潔・衣生活援助)							
環境	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学概論						
科目名(英)	Introduction to Adult Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山本 勇也、草本 君子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	成人期にある対象を統合的に理解し、健康の維持増進・疾病の予防・健康レベルの回復に関わる看護について学べる内容を教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 成人のライフステージにおける身体的、心理社会的特徴について説明できる。	
	○	○				2. ライフスタイルがもたらす健康障害について説明できる。	
	○	○				3. 成人の能力や生活背景を踏まえた援助方法について説明できる。	
	○	○				4. 成人の健康障害の進行の性質に対応した看護について説明できる。	
	○	○				5. 成人の健康障害のレベルに対応した看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学総論[1]						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	成人の特徴(山本)				配布資料の事前通読	
	2	成人に特有な健康問題の特徴(山本)				配布資料の事前通読	
	3						
	4	成人の特性や能力に応じたアプローチ(山本)				配布資料の事前通読	
	5						
	6	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護(草本)				配布資料の事前通読	
	7						
	8	急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護(山本)				配布資料の事前通読	
	9						
	10	障害への適応と社会復帰への看護(草本)				配布資料の事前通読	
	11						
	12	慢性的な経過をたどる健康障害への看護(山本)				配布資料の事前通読	
	13						
	14	終末期の看護(山本)				配布資料の事前通読	
15							
評価方法	・筆記試験100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(山本)	◎	◎				60%
	筆記試験(草本)	◎	◎				40%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法 I 消化器・代謝・GW						
科目名(英)	Adult nursing method I digestive system, metabolism, GW						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	西島 明日香		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活に折り合いをつけて、自らの力で生活を拡大生きていくかをテーマとし、看護方法、事例を用いた看護の実際、看護過程を通してセルフマネジメントを目指す看護を学ぶ。特に患者教育に重点をおき、その人らしい生活が営めるように援助する看護実践能力を養うことを目指した。具体的には、「栄養・代謝障害」、「排泄機能障害」のある患者の看護を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				代謝障害のある患者の特徴を身体的側面・心理・社会的側面からとらえ、それぞれに対する看護援助について説明できる。	
	○	○				慢性疾患看護に特徴的な役割のひとつである患者・家族への教育的支援についてふれ、そのなかでヘルスプロモーションの考え方について説明できる。	
	○	○				栄養障害を引き起こす疾患を理解し、内科的・外科的治療を受ける患者の看護について説明できる。	
	○	○				消化器症状に対する看護について説明できる。	
○	○				排泄物(便・尿)が生成され排出される機構を理解し、それが妨げられた状態の症状や治療・看護について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統別看護学講座 消化器、成人看護学概論、代謝栄養						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	既習知識(解剖・病態)を基盤に看護を追求する方法			配布資料の事前通読		
	2	肝硬変からの食道静脈瘤の事例を通して					
	3	病態:原因・症状・診断・治療					
	4	病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前-					
	5	糖代謝障害の特徴的な症状(尿量減少・口渇・多飲・体重減少・易感染症)					
	6	糖代謝障害をきたした患者の主な治療における看護と合併症予防					
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・食事療法(摂取エネルギーの算出) ・運動療法 ・薬物療法(内服・インスリン療法) 					
	8	ヘンダーソンの看護理論をもとに、「2型糖尿病患者」の看護過程の展開を					
	9	ペーパーシミュレーション					
	10	1)アセスメント					
	11	①2型糖尿病の病態と治療、看護の方向性					
	12	②病態とニード未充足の関連性					
	13	③健康な部分(強み)を発見					
	14	2)看護診断(問題リスト)					
15	3)看護計画(初期計画)						
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(30% *グループワーク中の態度含)、講義内容の筆記試験(70%)、合計100%にて評価する。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎		◎		30%
	筆記試験	◎	◎				70%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学概論						
科目名(英)	Introduction to Gerontological nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	井上久美子 尾崎 恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	より広い観点から高齢化の現状を捉えるため、人口統計的な知識・社会構造的な知識から、高齢社会の現状と課題、ヘルスケアシステムなどについて学ぶ。 また、老年看護を学ぶ基礎として、老年期の定義、そして高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と生活への影響などについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 高齢社会の現状と課題について説明できる。	
	○	○				2. 高齢社会における社会の仕組みについて説明できる。	
	○	○				3. 老年期について定義、発達課題などについて説明できる。	
	○	○				4. 高齢者の健康の特徴について説明できる。	
	○	○				5. 加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ・配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高齢社会の現状と課題(高齢化率など統計的背景)				テキスト事前通読による予習、復習 適宜課題提示あり	
	2	地域包括ケアシステムとは					
	3	地域包括支援センターの役割					
	4	高齢者の介護保険制度					
	5	高齢者の介護保険サービス					
	6	高齢者虐待の防止(高齢者虐待防止法)					
	7	高齢者の安全確保と身体拘束(例外3原則)					
	8	高齢者の権利擁護(成年後見制度、ノーマライゼーション)					
	9	高齢者体験					
	10	未知なる老いのイメージ、加齢と老化、老年期とは					
	11	身体的・心理的・社会的機能の変化、高齢者の疾病の特徴					
	12	加齢に伴う身体機能の変化:循環器系・呼吸器系					
	13	加齢に伴う身体機能の変化:外皮系・視覚・聴覚・味覚・嗅覚					
	14	加齢に伴う身体機能の変化:運動器系・消化器系					
	15	加齢に伴う身体機能の変化:泌尿生殖器系・ホルモン分泌					
評価方法	・2名の講師による講義内容を 筆記試験 各50点 合計100点にて評価を行う。 ・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(井上)	◎	◎			50%
		筆記試験(尾崎)	◎	◎			50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学概論						
科目名(英)	Introduction to pediatric nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸 翔子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 1年生						
授業概要	小児看護学の理念や目的、新生児・幼児・学童・思春期の成長発達の特徴および看護の役割、小児を取り巻く家族や社会の動向を学び、小児や家族のアセスメントの基盤としていく。また、小児の発達の理解に必要な理論、小児に関連する保健医療福祉の変遷と制度を学ぶことで、歴史的背景や現代の動向に対する理解へつなげる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 子どもと家族をより広い視点からとらえて、小児看護の果たす役割について説明できる。	
	○	○				2. 小児看護の対象はすべての健康レベルの子どもであることを説明できる。	
	○	○				3. 小児の成長発達、小児各期の発達の特徴について説明できる。	
	○	○				4. 小児をめぐる法律や政策について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	小児看護の特徴と理念				テキスト・配布資料の事前通読 適宜課題提示あり	
	2	小児看護の課題と倫理					
	3	小児各期の成長発達の原則と発達課題					
	4	成長発達に影響する因子・発達の評価					
	5	家族の特徴とアセスメント					
	6	小児のアセスメントに必要な技術					
	7	小児の身体的アセスメント					
	8	新生児期の形態的・機能的・精神の特徴					
	9	乳児期の形態的・機能的・精神の特徴					
	10	幼児期の形態的・機能的・精神の特徴					
	11	学童期の形態的・機能的・精神の特徴					
	12	思春期の形態的・機能的・精神の特徴					
	13	小児と家族を取り巻く社会					
	14	小児を保護する法律					
15	小児の権利擁護						
評価方法	筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学概論							
科目名(英)	Introduction of maternal nursing							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	浅見 詩織			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科 1年生							
授業概要	母性看護学概論では、母性看護の変遷と動向・意義に加え、人間の性と生殖、母性看護の特性、女性のライフステージについて学ぶ。							
授業形式	講義: ○	演習: :△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				1. 女性のライフサイクルから見た看護の対象を説明することができる。		
	○	○				2. リプロダクティブヘルスライツの考え方を説明することができる。		
	○	○				3. 現代社会における問題を知り、母性看護の意義と役割を述べることができる。		
	○	○				4. ライフサイクル各期に起こりやすい生殖機能の障害を理解し、必要な看護を考えることができる。		
	○	○				5. 高度生殖医療による生命倫理の現状を知り、看護職者としての倫理観について考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	母性看護のあり方					テキスト事前通読、適宜課題実施	
	2	母性看護における倫理						
	3	母性看護の歴史的変遷と現状						
	4	母性看護の対象を取り巻く環境						
	5	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化						
	6	女性のライフサイクルと家族						
	7	母性・父性・親性の発達						
	8	母性看護学における看護過程						
	9	母性看護に使われる看護技術						
	10	思春期の健康と看護						
	11	成熟期の健康と看護						
	12	更年期の健康と看護						
	13	老年期の健康と看護						
	14	リプロダクティブヘルスケア						
	15	国際化(母子保健)社会と看護						
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				100%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							